

【平成16年度専修学校先進的教育研究開発事業】

事業名	若年層の地域特性を考慮した就業マインドアップ・カリキュラムの研究開発		
学校法人名	学校法人 武田学園		
学校名	専門学校ビーマックス		
代表者	武田 結幸	担当者・連絡先	繁田 洋行 086-256-7610

< 事業の概要 >

学生に対し特性分析診断を実施し、若年層の気質・性格と就業意欲の高い社会人の気質・性格を比較する。また地域特性にも焦点を置き、各地での格差を検証する。

その結果から、「就業意欲を持つ特性」の強みを数値として把握する。次に当該数値を使い、気質・性格・地域特性に焦点を当てた社会適応力向上のための教育プログラム（PEP：参加型教育プログラム）を研究・開発・実施する。そしてPEPの実施後、再度特性診断を行い、プログラムの効果（前述の数値の変化）について分析する。

< 成 果 >

当初仮説を立てた地域特性については、残念ながら結果は得られなかったが、PEPの有効性は昨年度及び今年度の特性分析の結果から得ることができた。

確かに、事業としてのまとまりを考えれば、各校が全くばらばらにプログラムを実施したのでは統一感も得られず、データの整合性も危うくなる。が、プログラムの根幹は変えずに、各校の学生のコース特性に応じた変容はこれからも必要とされるころではないかと考える。また、『就業体感プログラム』は、学校の枠を飛び越え、地域社会とのつながりの中で働くということ、協働するということを体験的に理解するという意味において画期的なものとなった。期間としては3泊4日という短期間ではあるが、通常の講義ではなし得ない、寝食を共にしてのプログラムは、そのカリキュラムの濃密さを考慮すれば、十分に長期的プログラムに匹敵するほどの価値を提供したのではないだろうか。学生のコメントからも、その成長ぶりが十分にうかがえるものであった。来年度以降はこういった特別プログラムも、各校ならではの特性を活かした取り組みを期待したい。

最後に、専門学校生はともすれば自分の悪い面、弱い面に目を向けがちな傾向がうかがえる。このことは、これまでの人生において彼らはあまり褒められるということがなく、成功体験を積んで来られていないということの意味するのかもしれない。この背景には、未だ「大学へ行けない者が専門学校へ行く」といった悪しき学歴主義が世間にはびこっていることがある。今後我々の大きな課題として、こういった学生の性格を少しでも成熟の方向に導くプログラムの実施が求められる。また、各自の性格タイプの組み合わせを考慮することで、より高い成果の生み出せる集団の形成も考えたい。